



Libreria Editrice Vaticana, Città del Vaticano © 転載許可済  
©1981 精道教育促進協会(武庫)三二・三四五二 芦屋市船戸町12-9

# 教皇様の叢

## 「おのおのが器を 神聖に清く保ちなさい」

(…)使徒パウロの教えによると、純潔には徳としての面と聖霊の賜としての面とがあります。この教えは特にコリント人への書簡によく現われていますが、彼はそこで、体のことを「聖霊の聖所」と呼んでいます。

「あなたたちの体はその内にある神から受けた聖霊の聖所であって、自分のものではないと知らないのか。」こう説く前に聖パウロは「淫行をさげよ。これ以外の罪はみな体の外にあるが、淫行者は自分の体を汚す」と厳しく要求しました。この種の罪の特徴は、それが他の罪とちがって、体を汚すからであると言っています。このようにして、聖パウロが「体の罪」とか「肉の罪」とかいうことを使うわけがわかるのではないのでしょうか。この種の罪は、「おのおの器を神聖に尊く保て」という教えに反する罪です。

この種の罪は体を汚してしましますが、同時に、人格の尊厳を奪います。そこで聖パウロは、この罪は「聖所をも汚す」と言うのです。人間に尊厳を与えるのは確かに人間の霊魂(…)ですが、それ以上に、キリストの救い

の実りである聖霊が人間の霊魂と体との両方にお住まいになり、たえず現存してください。ばこそ、尊厳をうけるのです。

ですから、人間の体はもはや自分のものではありません。(…)「あなたの体は、そのうちにある神から受けた聖霊の聖所である」と聖パウロが言うとき、体に尊厳を与えるものは聖霊である、また聖霊は人間の尊厳から生じる道徳的義務の源でもあると言っているのです。

### あなたは高値で買われた

人間の尊厳の源になるのは、「体のあがない」でもある救いのみわざであります。聖パウロによるとこの信仰の奥義は一人ひとりの人間にとつて非常に大切なことなのです。救いのおかげで、人間は再び神から、いわば自分自身と自分の体を受けたこととなります。キリストは人間一人ひとりの体に新しい尊厳を刻印してくださいました。人間の体はキリストにおいて霊魂と共に、御子の(…)ペルソナに結ばれるのです。このように新たな尊厳を与えられ、体のあがないが実現したことによ

って、新たな義務も生まれました。それを聖パウロは簡潔にしかもあきらかに感動にふるえながら表現しています。「あなたたちは高値で買われた。あがないのみわざには聖霊という実りが与えられました。」

その聖霊は人間の心と体を聖所になさったのです。人間は、聖化する神の賜を得ることによって、自分自身を神の贈り物として受けるのです。この二つの賜には拘束力があります。神のたまもの気づいた聖パウロは、ここでいう拘束力について信者に書き送り、納得させようと努めているのです。「淫行を犯してはならない。自分の体を汚してはならない」体は淫行のためではなく主のためである。「ご託身の奥義をこれ以上簡潔に言い表わすのは容易なことではないでしょう。イエズス・キリストにおいて人間の体は、神であり人である方の体になりました。そのおかげで、人間はひとしく超自然的に高められたわけですから、自分の体と他人の体(つまり、男性は女性の体に、そして女性は男性の体)に対して、敬いの心をもたねばなりません。体のあがないのうちには、キリストにおいて、キリストを通して、体を聖化するための手段も含まれています。聖パウロは体の聖性について「おのおのが器を神聖に尊く保ちなさい。」

## イエズスとマリアの 心を知る祈り

私たちの毎日は聖母のご保護を必要とします。私たちの生命を聖母におまかせしなければなりません。教会はそのために非常に簡単な祈りを勧めています。日々の生活のなかに散りばめるように組み入れることのできるロザリオの祈りです。家族でか、一人で、ロザリオを唱えれば、少しづつキリストとマリアの心がわかるようになり、救いの鍵ともいえる

と教えています。

### 主とひとつの霊になる

他方、書簡で聖パウロは体の聖性についての真理についてはっきりとした説明をし、「淫行」つまり不純の罪を強く非難しています。「あなたたちの体はキリストの肢体である。ことを知らないのか。それなのに、キリストの肢体をとつて娼婦の肢体にしてよからうか、けっしてそうしてはならぬ。娼婦につく者はそれと一つの体になることを知らないのか。『二人は一体となる』と書き記されている。主につく者は彼と一つの霊になる。」聖パウロの言うように、純潔が「霊に従う生活」の一面であるとするなら、キリストの奥義の一面としての体のあがないは、ご託身のときに始まり、あらゆる人々に伝えられたわけですから、全ての人々のうちに実りを与えるはずであると云えるのです。(…)

「高値で買われた、つまりキリストのあがないに与った私たちには「おのおのの器を神聖に尊く保つ」努力がとくに強く要求されているのです。私たちの体があがなわれたことをはっきり悟るなら、純潔の徳と呼ばれるすばらしい力を手に入れるのに大いに役に立つことでしょう。(…)一九八一年二月十一日

るさまざまの出来事一つ残らず思い浮べることが出来ます。「めでたし」を繰り返しつつ、ご託身、あがない、さらに神の光と安らぎのうちに私たちの向うべき行き先を黙想することが出来るのです。皆さん方に任されている大切な仕事に力をお与えになる聖霊に、聖母と一緒に、心を開くことが出来るでしょう。母親の皆さんは、聖母と共に、生命の与え手、家庭の守りであり教育者としての役割を立派に果たして行かれるでしょう。

聖母が皆さんの力となり慰めとなりますように。アーメン。(一九八〇・五・六 キサンガニ大聖堂)

# 父親の模範—聖ヨゼフ

「ダヴィドの子ヨゼフ、恐れずにマリヤとマリヤに宿る子を受けいれなさい。」(マテオ1:20参照) 父なる神はいわばご自分と「父性」をわかち合う世の父親たちにこう言っておられます。神はみなさん方ひとり一人と父性をわかち合われると言います。ナザレトのヨゼフのような神秘的、超自然的方法ではありません。しかし、世の父親のもつ父性の始めと模範は父であらせられる神にあります。みなさん方の父性は常に母性と関係があり

ます。女であり母である聖母に宿った御子は、人間の創り主である神が世の始めのときから祝福された特別の絆で、みなさん方配偶者、夫婦を結びつけてくださったのです。それは父性と母性を一つなぐ絆であって、男つまり夫が母性内に自分を表現し、確認する生命をみつけたときから始まると言えます。父性とは生命に対する責任をしめす、と言えるでしょう。まず女性の胎内に宿り、そして生まれる生命、みなさん方の血であり肉で

## 言葉はなくとも

### 音色は語りかける

(…)パイプオルガンはその主要な部分を考えると楽器のなかでも最古に属するだけでなく、史上最高の名誉を受けてきた楽器と言えるでしょう。キリスト教が始まってしばらく経ったときにはすでに、ビザンチンとフランク族の手によってヨーロッパに紹介され、すぐに、ラテン教会お気に入りの伝統楽器になったのです。オルガン関係の技術が高度に完成されたドイツでは、芸術的にも宗教的にも素晴らしい傑作が生みだされました。ヨハン・セバスチャン・バッハの名をあげるだけで充分でしょう。ドイツでは今もオルガン音楽が盛んで知名人の間でも演奏をよくする人が大勢おられます。

が教会の祭式にすばらしい輝きをそえ、心を神と天上のものへと高く掲げる伝統的楽器として、ラテン教会において大いに尊重されなければならぬ。(『典礼憲章』120) 今日から公会議の精神に従って大いに神をたたえ、人の霊的進歩に役立てるために聖ペトロの大広場での荘厳な儀式をより美しくする道具がドイツで作られたオルガンであるという事実が幸運としか言いようはありません。このパイプオルガンがその崇高にして妙なる音を奏でて、信者の方々の祈る心に役立ち、教会の歌を神に届け、ご聖体の秘跡に与る人々がよろこびにみちた心で神に仕えることのできるように。言葉はなくとも音色は語りかけるとアウグスティヌスが言うように、音楽は言葉に表わせないことがらを伝えてくれます。音楽は独特な仕方と典礼が祝う秘義を表現し、また解釈してくれますし、霊と真理における神礼拝を容易にしてくれるのです。国境を持たない音楽が万人に愛と平安をもたらせてくれますように。(一九八一・四・十一)

ある新しい人に対する責任、それを父性ということばで表わすのです。「あなたの妻を捨ててはならない」とおおせになる神は同時に、「その女性に宿る子を捨ててはならない」と言われます。これはナザレトのヨゼフにおおせになったのと同じことばです。もちろんヨゼフの場合は、聖霊の御働きによって童貞聖マリヤに宿った御子との間に血縁関係はありませんでしたが、神はすべての人々におおせになります。「あなたから生まれる子を受け入れなさい。子を抑えてはならない」。神はこの命令を教会を通してだけではなく、良心の声を通してもお与えになります。たとえ、耳を貸さないようにさせたり、もみ消したりしようとしても、

## 日本の「小さい群」を

### お守りください

(…)私は(…)声をあげて祈りたいと思います。原罪のけがれなき方よ、ローマの司教かつ聖ペトロの後継者(…)私ヨハネ・パウロ二世は、あなたの御子の教会、この日本においても四百年以上、己が使命を果しつつつづけるこの教会をあなたに委託いたします。この教会も偉大な殉教者たちと不屈の証聖者たちをもつ歴史ある教会です。これはまた司教たちの奉仕と、日本人及び宣教会の司祭、修道者、修道女の活動と、自分の家庭と社会のさまざまな分野に生きて、日々その文化と文明を進展させ、共同善を推進しているキリスト教徒の証とによって、今も前進しつつける今日の教会でもあります。

良心の声は単純明白な声であって、聞かないわけにはゆきません。精を出して労働にいそむ人々の良く知っている声なのです。人々が最も強く感じる絆と言え、それは仕事と家族を結ぶ絆でしょう。仕事は家族のためでありますが、こう言えるのは仕事は人間の為であって、その逆ではないからです。また特に家庭が人間に固有な場であると言えます。家庭こそ人間が宿り、生まれ、成長する環境なのです。それこそ自己完成の場であると同時に、真剣に責任を負うべき場でもあります。(…) 私は世の父親たちがこの根本的な二つの善、つまり家庭の一致と母に宿る生命の尊重とを保証し守ってくださることをかたく信じたいと思います。(一九八一・三十九ニール)

それではならない……あなたたちにみ国をくださるの、は、あなたたちの父の心である(ルカ12・32)と励ましてくださった小さい群であります。

教会のけがれなき御母よ、御子にお取り次ぎくださって、この「小さい群」が日々日本における神の国の、より効果的なるしとなるようお取り計らいください。またこの小さい群を通して、神の国が人々の生活の中に一層輝きを示し、信仰の賜物と洗礼のお恵みによって、他の人びとの間にも広められて行きますように。

神の国が日本の教会の子どもたちの模範的キリスト教生活を通して、より力強いものとなり、また世界の歴史が神において完成される日を待ちながら、主の再臨の希望に支えられ成長を続けていきますように。

原罪のけがれなき御方よ、私はこのことをあなたのご配慮にゆだねます。(一九八一・三二六 長崎)

# 説教・講話・書簡等の抄訳

## 障害者のみなさん

### おのれを超えろ 「記録」をたてよう

(...)みなさんがスポーツに関心をおもちなのは経験的な面ではありません。いろいろなスポーツの新記録を樹立するためでもないでしょう。しかし、みなさん方は参加することによって、色々な面からみていわゆる記録などには及ばないもっと大切な「記録」を樹立されたことになりました。おのれを超えろという記録のことを言っているのです。みなさんは、スポーツを通して、世界的兄弟愛と、人類というこの家族の連帯、という記録をたてたのです。(...)

障害者の方々に必要ないろんなことから、ついで、人々が以前よりもっとよく気がつくようになったことをうれしく思います。このようなことによく気づくようになり、また、それを保ちつづけることができるようになったのは、人間の値打ちと尊さをよりよく理解できるようになったからでしょう。人間の値打ちや尊さは力や外観など第二義的な素質からである、人格である、という根本的な事実から生まれるものなのです。

これとともに、色々な形で人類家族のメンバーが連帯を保つ義務にも気づきます。それは色々な形で社会生活に参与する権利をもっているのです。そこで私たちは差別を止めさせる努力をしなければなりません。それも、民族間の差別だけでなく、強く健康の者と病弱者との間の差別を取りのぞかなくて

はならないのです。(...)

(...)昨今、人々が以前にもまして、このようなくことによく気づき敏感な反応を示していますが、今こそ、適切な形で法制化するときであり、また、医学、心理学、社会学、教育の各分野で活動が続ける人々が障害者の社会復帰を実現させるよう努力すべきときでもあります。

しかし、このような努力にもまして大切なことは、市民各自、および社会における諸々のグループの側の心の変化、回心であって、人々は、学校、職場、その他スポーツを含む種々の活動分野に身体障害者を兄弟としてよるこんで受け入れなければなりません。(...)

障害者の方々は社会的障壁を取り除き、人間性の新しい価値をもたらし、新しい文明、愛に鼓吹された文明を築き上げるために、積極的な役目を果たすことができるのです。

イエズス・キリストのなかには、すべての障害者、障害者を助ける人々、障害者との関わりにおける社会などにとって、大切な使命が含まれています。イエズス・キリストは生命の価値、人間一人ひとりの価値を強調されました。人間はひとしく神から出たもの、神との交わりに生きるよう召された存在であるからです。イエズスのこの使信は、病いになやむ人々、苦しむ人々、そして痛み苦しむ人々への主の奉仕のなかに読み取ることが出来ます。それはまた、助けを必要とする人々の仲間入りをし、弟子たちに「私の兄弟であるこれら小さな人々の一人にしたことは、つまり私にしてくれたことである。」(マテオ25・40)とお

おせになったことばのなかにもみつけることができます。(...)

(一九八一・四・三)

### 愛の力を示しつづけて

(...)最近聖座は、身体障害者に奉仕するグループや団体、修道者および信徒のみなさんが、困難をもととせず愛の力を示し続けてこられたことに対して、感謝の意を表わしました。と同時に、「ハンディキャップを負う方々一人ひとりが、自分の尊厳と値うちを気づき、自分に求められていることを実現することによって、家族と社会の善と進歩に貢献できるように欲し」と強調してきました。(...)障害者の方々の地位向上を求め、兄弟的慰めを与えるという広大でしかも細やかな心を要する仕事に携わるみなさん、たえずより高い目標に向って精進なさっているお仕事が高い評価を受けるべき仕事であることを自覚してください。すでにやりとげたことに満足せず、また、困難にも負けないで

ください。体の不自由な方々の心と目のなかにあることを読み取る努力をしてください。彼らは人には見えなくとも神がご存知の毎日の戦いをつづけ、信仰によって強くなっています。みなさん方が世話をなさっている人々にとって親しい人として、本当のあたたかい友情を感じ取れるようにしてあげてください。香の高い香油のように、数多くの心に慰めを与え、苦しみをやわらげることができるようから。人間関係の基礎というべき正義感だけでなく、とくに、愛のこもる理解を示さなければなりません。回勅『あわれみの神』に、私は次のように書きました。「人と人、人と社会との多面的関係に、正義だけではなく、福音のメッセージである『あわれみ深い愛』をもたらずなら、もっと人間味あふれた社会になるであろう。こうして始めて、助けを必要とする男女のなかに、苦しむキリストをみいだすことができるのです。特に四旬節の間キリストは、「美しさも輝きもないしもべ」の姿で現われます。(一九八一・三・十四)

## お告げの祈り

一日の半ばに、しばし手を休めて、私たちの母マリアに心をあげましょう。朝と昼と夕に、しばし祈りのときをもうけて、大天使聖ガブリエルのあいさつと聖母の返事からなる「お告げの祈り」を唱える習慣(復活節中には「レチナ・チェリ」はカトリック教会に古くから伝わってきました。

神の御子は聖母のご胎内で人間となられ、復活されました。これは私たちの信仰の中心である喜びと栄えの玄義です。聖母と共にこれらの場面をたえず黙想しなければなりません。カナにおける弟子たちと同じように私た

ちは本物の弟子にならねばなりません。これは聖母と共に始めて実現できることなのです。聖霊降臨のときの弟子たちのように、

聖霊に心を開きますが、これも聖母と一緒になければなりません。この母である聖マリアと共に、物的あるいは霊的に必要とするものがあるとき、優しい御父にお願いするのです。みなさんは、生命をもたらし、家庭を守る女性の役割がいかに大切かをよくご存知です。私はみなさんに、「女のうちに祝せられ」た女性、主のかたわらで光栄をお受けになる女性、私たちに神をおおくりになる聖母マリアに対して、心から自然に、しかもしばしば信心をあらわしてください。 (一九八〇・五・四 キンシャサ)

# 不変の教え

## 新婚の方々へ

みなさん方の契りはキリストの祝福を受け、聖なる契りとなりました。婚姻の秘跡によって、キリストの愛にいわば「接ぎ木」されたからです。キリストに忠実な態度を保つなら、みなさん方の愛が炎となって燃えるだけでなく、日毎に大きくなることでしよう。どんなにその愛を成長させてください。みなさん方の愛は永遠の生命を分かちあうよるこびであると言えますが、それぞれが自分を抑え、犠牲の心を実行しなければ保つことのできないものでもあります。祈りと秘跡の力を得て、愛を養い育ててください。今日みられる色々な危険やある種のイデオロギー的な宣伝に負けないで、しっかりと愛を守り、生命を伝えるという使命を果し、創造主である神の寛大な協力者になってください。(一九八一・四・二十二)

ご両親や友人方の祝福をたくさんお受けになったことでしょうか、私の祝福も加えさせていただきます。祈りの力を借りて、みなさん方の愛をキリストにしっかりと「根づかせる」ことができるなら、人生につきものの色々な難儀や大雨もなすすべはなく、かえって、愛と忠実な一致をつよめるのに役立ち、その結果、聖書が教えるように、生命を伝える点で神の協力者になるのです。天の助けをうけるみなさん方が、つねにただただ生命を与え、決して死をもたらず道具になることのあるままにせんように。(一九八一・四・八)

## 司祭へ

司祭はみな、師であるイエズス・キリストの光を自分の身にまとった分だけ、闇にある人々のため光となりうる事を知っています。彼は自分自身危険な蔭に包まれていますから、

唯一の光の源泉から離れたとたんに、他の人々に光を与えることができなくなり得ます。ですから、皆さんはいつも司祭であるキリストの近くにおいて、彼のことは熱心に聞き、聖体祭儀においてキリストの秘義を捧げ、いづいかなるときもキリストとの親密さと友情を保つていかねばなりません。余りにもしばしば闇に閉ざされているこの世のために、皆さんが真の光であるかどうかでもって、人々は皆さんのキリストとの交わりの深さを計り知ることになるでしょう。

しかし究極的には、司祭が不完全にまたいくらか完全に近く、キリストの光を反射するだけで十分なのではありません。司祭は自分の姿を消し去って、ただひたすらキリストのみが輝き出るよう努めねばなりません。「私たちは自分自身を宣べ伝えるのではなく、主なるキリスト・イエズスを宣べ伝える。それは「闇の中から光が照りいでよ」と仰せられた神が、キリストの顔に輝く神の栄光の知識を明らかにするために、私たちの心を照らして下さったからです」(コリント後4:5-6)とパウロが言っている通りです。

## 愛するみなさんへ

司祭として皆さんは、信仰を通してキリストの顔から輝きでる光の奉仕者となるのです。ですから皆さんの使命は、まず第一に「信仰は聞くことからくる」(ローマ10・17)というその「聞くことから」教えを宣べる用意をなすことです。第二バチカン公会議は司祭のことを「信仰における教師(司祭の職務と生活に関する教令6)と述べました。皆さんの第一の奉仕は、真理そのものであるキリストと信仰の真理をすべての人々に宣べ伝え、絶えず人々の信仰を養い育て、弱いところではそれを強め、あらゆる危険から信仰を守ることです。

皆さんが自ら深い円熟した信仰と、人々を仲間ひきこまずにはおかないたくましい信仰をもてばもつほど、より偉大な信仰の教師になれることはいうまでもありません。福音史家たちは、イエズスが十二使徒を仲間としてすこされた年月を、十二人の信仰を養う過程として描いています。「イエズスはその栄光を現わされた。そして弟子たちはイエズスを信じた」(ヨハネ2・11)とヨハネは書きましました。皆さんもここに至る前にイエズスといっしょに年月を過ごしてきました。皆さんは師なるイエズスのことばにしっかりと立ち、いつでもたかう用意があり、試験に耐えうる大人の信仰をもつキリストの弟子でなければなりません。どうぞ「私たちの信仰を強めて下さい」(ルカ17・5)と祈る使徒たちの謙虚で熱心な祈りに声を合せることを止めないで下さい。そしてキリストがペトロにいわれた「あなたの信仰がなくならないうちに、私はあなたのために祈った」(ルカ22・32)ということばを、皆さんも返事として聞くことができましよう。こうしてはじめて、皆さんは他の多くの人々を信仰に導く具えが出来たといえるのです。(一九八一・二・二十五 長崎)

## 信徒へ

日本の信徒である皆さんには、キリストへの忠誠、輝く希望、燃ゆる愛によるキリストとの一致の力をもたす力をもって、社会の各階層への福音の滲透をはかり、ことばと行動でキリストのメッセージと恵みを分配するといふ独特の責任が委託されています。真の使徒として、皆さんは、信仰を持たない人々には、キリストを宣教し、信者に対しては彼らの信仰の強化をはかるべく、種々、好機を模索して

## 病者へ

ゆくことでしよう。そうです。あなたたちの役割は教会の生命と使命に決して欠かすことが出来ない。(一九八一・二・二十三 東京)

(…)病いの床に伏せられている兄弟や姉妹の皆さん方に話したいと思えます。ここにくることでできた皆さんと、体の調子の関係で自分の部屋や病棟に残られた皆さんにあてて話します。私の言葉は最近、司祭やシスター達に勧めた福音的愛徳の炎から生まれたものです。一九七八年十月十七日、思いがけなく教皇の座に上げられてすぐ、アゴステイノ・ジメリ総合病院へ行きました。モンテマリオの友達を見舞いたいという衝動にかられたからというだけではありません。二年後の今、もう一度ははっきりと申し上げることが出来ます。ペトロの後継者としての重責をどのように考えていたかを明確に示したかったのです。その時病に伏す人々に、本当に頼みにしていること、彼らが頼みの綱なのだということを申し上げました。祈り、とりわけ苦しみを捧げてくださることによって、わたくしに特別な力が与えられるのです。キリストの教会における重責を少しでもうまく果たすためにみなさんのささげてくださいる祈りと苦しみがそのとき必要であったし、今も必要なのです。この教会内の通功(交わり)は神秘的でいてしかも現実のもので、苦しんでいる人々の犠牲を協力者としてより一段と強められ、値打ちを増しました。今もう一度、みなさん方に、このことを申し上げたかったのです。繰り返させてください。私はあなたがたを本当に頼みにしているのです。助けてくださってあげがとう。私はわたしでみなさん方一人ひとりのことを主におねがいします。主こそ生命の主であり、あわれみの父、すべてのなぐさめの神でいらっしゃるからです。(一九八〇・十二月二十)

『教皇様の声』 ヨハネ・パウロ二世教皇の説教・書簡・講話などを解説しながら  
そのまま伝える月刊紙 ■毎月 十日発行 ■定価 一部六十円送料六十円  
■一年予約七百二十四円送料七百二十円 ■二十部以上の一括購入なら送料不要

郵便振替  
神戸  
072393